

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【与野南中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

次年度に向けて
(3月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 根拠を基に説明をする問いや漢字や単語などを理解する力が不足している。 <指導上の課題> 生徒が何につまづき、何を得意にしているのかを各教科の特性に応じながら把握することが不十分である。	⇒ ①教科と単元の特性に応じてTDL(Time to deepen your learning:学びを深める時間)型授業を取り入れ、学びの過程や理解したことを把握し振り返る機会を設け、自己評価を積み重ねながらステップアップを実感できるような授業改善を進める。【①年間を通して実施】 ②話し合い活動やタブレット端末上での意見共有ツールを活用した協働的な学びの機会を設定し、「学び方を学ぶ」指導を継続的に行うことで、生徒の学びの自走を図る。【②各単元で1回以上実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語では「書くこと」、数学では「記述」の問題に対して課題があり、多角的に思考し選択・判断する力が不足している。 <指導上の課題> 単元全体を見通した上で、つまづきやすい分野(問題)について、生徒の理解や実態に合わせて柔軟に指導・サポートできる工夫が不十分である。	⇒ ①生徒が多様な思考に触れるため、TDL(Time to deepen your learning:学びを深める時間)型授業における生徒同士の協働的な学びの機会を積極的に設定する ②各教科の授業にて、「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を実施し、自分の考えを書く時間、他者の意見と自分の意見を共有、比較し検討する時間などを設定し、生徒が文章を使って表現する活動に重点的に取り組んでいく。【①・②年間を通して実施】

全国学力・学習状況調査
<小6・中3>(4月～5月)

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	調査の振り返り(4月) ①児童生徒による振り返り ②調査問題の解説 ③振り返りの終了報告	
思考・判断・表現	結果提供(7月) 調査結果分析(7～8月) ①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)	

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能			
思考・判断・表現			

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)